

鳥取市道路ビジョンの骨子

道路の現状認識

1. 道路の現状

- ①戦後の高度成長の中、モータリゼーション（自動車の大衆化現象）の高まりにより、道路整備が行われてきました。
 - 現在一定の量的ストックが形成されて、市民の生活の向上に大きく貢献しています。
 - 市内の市道：4,974路線、延長=1,669.240km、市内の道路橋：1,341橋、トンネル：6箇所
- ②高度経済成長期に整備した多くの道路施設が、今後急速に耐用年数を超えてしまいます。
 - 鳥取市道路橋梁長寿命化修繕計画書（案）（H26年3月）では建設後50年以上を経過する橋梁は92橋ですが、今後20年間で453橋となり、急速に老朽化が進みます。（※建設年数が不明な723橋は除く）
 - 今後厳しい財政状況を考慮すると、持続可能で確かな維持管理・更新を行うことが必要となります。（長寿命化計画を作成し、ライフサイクルコストを削減する。道路アセットマネジメントの導入により、更新時期の平準化と費用の最小化を図りながら、対症療法型から予防保全型の道路管理への転換が必要となります。）
- ③交通事故、交通渋滞、環境問題及び防災対策など、解決すべき様々な課題が山積しており、過去に発生した様々な事故や災害の教訓を風化させず、今後の対策に活かしていく必要があります。
 - 登下校中の児童等の列に自動車が入り込む事故（京都府亀岡市）及びトンネル天井板落下事故（中央道笹子トンネル）など
 - 阪神淡路大震災及び東日本大震災など
- ④緑化推進、良好な景観形成、沿道利用及び既存市街地の再生など様々なまちづくりの施策と協調して、道路整備を進めていく必要があります。

2. これまでの道路整備の在り方

- ①車優先の道路整備
 - 戦後、急激に進化したモータリゼーションに対応するため車優先の整備が行われてきました。
- ②量的拡大を重視した道路整備
 - 道路整備は「造る」ことに主眼が置かれてきました。
 - 違法路上駐車、不法占用物件の放置並びに重量超過車両による事故等により交通機能が阻害されています。
 - 重量超過車両による負荷により舗装や橋梁RC床版の老朽化を早め、道路の耐用年数が短命化しています。
- ③課題対応型の道づくり
 - 交通需要に対応する形で量的な整備を行ってきました。
 - 交通事故又は住民要望に対応する形で個別に整備を行ってきました。
 - 道路管理者、公安委員会及び沿線住民など相互の連携が不足しています。

今後の道路の在り方

1. 道路を取り巻く状況への対応

- ①人口減少及び超高齢化社会
- ②自動車交通量の減少
- ③道路施設の高齢化の進展
- ④厳しい財政状況
- ⑤低炭素、循環型社会
- ⑥災害に強いまちづくり

2. これからの道づくり

- ①課題対応型の道づくりからの脱却（ビジョン提示）
- ②計画に基づいた道路整備（根拠・位置付け、説明責任）
- ③他事業とのさらなる協調（相乗効果）
- ④合意形成とフォローアップ（スキーム、プロセスの構築と運用）
- ⑤今後は維持管理、安全安心、財政状況などから「活用する」ことを重視する必要がある。

施策の実現のために

- ①道路ビジョンの作成時に市内だけでなく市民に意見募集をします。
- ②道路ビジョンの実現に向けた前期5ヶ年の具体的な実施計画として、実施事業の内容・箇所・規模、収支見通し及びスケジュール等を示す「道路アクションプログラム」を策定し、ビジョンの実現を図っていきます。
- ③各年度の事業推進目標に基づくプログラムの進行管理と点検・評価を行いながら、PDCAサイクルの手法により、毎年の事業の継続的な改善に努めます。
- ④選択と集中を行います。

道路ビジョン

○次代につなぐ道づくり

- ①効果的かつ効率的な維持管理体制の構築
 - ・施設の長寿命化につながる保全手法への転換
 - ・アセットマネジメントの導入
- ②持続可能な道づくり
 - ・道路の資産の有効活用

○安心を高める道づくり

- ③災害に強い道づくり
 - ・緊急輸送道路ネットワークの構築
 - ・計画的な除雪対策の実施
- ④雪に強い道づくり
 - ・計画的な除雪対策の実施
- ⑤渋滞のない道づくり
 - ・交通渋滞の緩和

○人にやさしい道づくり

- ⑥既存の道路空間の質的向上
 - ・道路空間の再配分
 - ・魅力ある道路景観の形成
- ⑦全ての人にやさしい道づくり
 - ・計画的なバリアフリー化の推進

- ・通学路の安全確保
- ・自転車利用環境の整備
- ⑧交通安全対策の推進による交通事故の削減
 - ・幹線道路での交通安全対策
 - ・生活道路での交通安全対策

○活力を創出する道づくり

- ⑨広域交流の促進
 - ・産業の発展、交流人口の増加
- ⑩地域間連携の強化
 - ・幹線道路ネットワークの形成
 - ・未整備都市計画道路への対応
 - ・地域間連携の促進

○定住環境の整備

- ・生活道路の改善

○市民との協働の道づくり

- ・アダプト制度のさらなる推進・拡充

道路ビジョンの視点

1. 転換の視点

○次代につなぐ道づくり

- 厳しい財政状況の中、道路ストックの老朽化に伴う維持管理費の増大を考慮すると、「今あるものを長く大切に」計画を作成する。（各長寿命化計画の作成）
- 道路・道路付属物を計画的に維持管理し、最適な維持更新を行うため、維持更新経費の平準化と抑制を図る必要がある。
- 違法駐車、違法駐輪等の交通機能を阻害する要因を排除して、道路の機能を最大限に発揮させる。
- 重量超過車両など道路の不適正な利用を排除して、道路への過大な負荷を減らし延命化を図る。

○安心を高める道づくり

- 緊急輸送路及び緊急輸送補助路線の橋梁等の耐震化などを進める。

○人にやさしい道づくり

- 車中心から「歩行者にやさしい道づくり」を行うことで、安心・安全な道路整備を行う。
- 通学路安全点検を行うことで、通学路の安全対策を行う。
- バリアフリー化、無電柱化などの取り組みを行う。

○活力を創出する道づくり

- 都市計画道路網に必要な幹線道路ネットワークを確立する。
- 都市計画道路の整備については、早期に事業効果を発現させるために現道を活かす方策を行う。
- まちづくりとの連携で相乗効果が期待できる道路整備を進める。
- 地域創生のため、企業誘致等を図るネットワーク道路を整備する。

○美しい景観や活力ある道づくり

- 生活道として毎日利用している市道等に愛着と責任を持ち、活動団体として認定を受けた住民や企業が、市との役割分担を定め協働により定期的（4回/年）な清掃・美化活動を行う。
- 沿道の歴史・文化資産及び景観だけでなく、道路の歴史性や文化性も含めて、道路の機能や価値を改めて評価し、地域振興に活用する。
- 道路や沿道の土地の利用状況や利用者のニーズを的確に把握して「今あるものを活かす」。

鳥取市道路ビジョンの体系表（案）

